

① 花 火
② 足 り
③ 天 気

④ いっしょう
⑤ めさき

② ごみ
2 A ア
B ウ

3 小
4 太 陽 の 光

5 マ イ ク ロ プ ラ ス チ ッ ク

③ ① 日
② 水
③ 木
④ 火
⑤ 金
⑥ 月

④ ① あ さ の か い

② イ
③ エ
⑥ イ

④ ウ
⑤ て ん こ う せ い

配 点

① 各2点×5=10点

②~④ 各5点×18=90点

<計>100点

① 「花火」は「火花」だと「ひばな」と読む。「火」は左右の「てん」から書く。② 「足(る)」は最後のところの形を正しく書こう。六画目は左にはらう。まっすぐ書いてはいけない。七画目は右下にのぼしてからはらう。③ の「天」は手足を広げた人の形をあらわす「大」の上に、空をあらわす「一」がある。「気」は「きがまえ」を四画で書く。「メ」は左はらいが先。④ 「一生」は生まれてから死ぬまでのこと。「生」を「しょう」と読む、ほかのことばをさがしてみよう。⑤ 「目先」はその場その場のこと。もっと全体のことも考えるべきだという意味の文になっている。「目先」にはすぐ目の前のこと、という意味もある。

②

1 ここでいう「問題」は、よくないことになっている、解決しなければいけないということである。□の前後がヒントになっている。「海をよこす」何「になっているのかと考えよう。文章中の「よこす」に気づけばわかりやすかっただろう。

2 A マイクロプラスチックはたいへんな量になっている可能性がある ↓ また ↓ マイクロプラスチックは海岸から遠い海にも広がっていることがわかってきた。
量が多いということ、海全体に広がっていることをならべている。

B 生き物の体は、死ぬと微生物に分解されて、もとの自然にもどる ↓ しかし ↓ プラスチックは完全には分解されない。
分解されて自然にもどるものと、もどらないものをくらべている。

3 分解されるというのは小さく分けられることである。プラスチックが小さくなったものがマイクロプラスチックであった。プラスチックは熱や光でこれれやすくなり、砂にもまねたりして小さくなるのであった。ただし、完全には分解されないで、いつまでも海にごみとして残ってしまうのである。

4 「砂浜にうちあげられたプラスチックごみ」が「あびる」ものである。それを「海中より強く」「あびる」ことで「くだけやすく」なるのであった。「中略」の前にも「太陽の光にあたりたりすると」「これれやすく」なるのであった。

5 「小さな」プラスチックのこのなかでかんたんだったはずである。本文が何についての話であるのかをわすれないように読みすすめてほしい。

③

年中行事・生活常識・ことわざの問題である。国語の学習に必要な知識には生活における常識もふくまれる。いろいろなことを知っていこう。

① 「初日の出」は、元日の朝日のこと。元日の朝のことを元旦という。

② 「焼け石に水」は、少しばかりの援助や労力ではまるで効果がなないこと。

③ 「さるも木から落ちる」は、その道の名人でも時には失敗することがあるということ。

④ 「火の用心」は、火事にならないように気をつけること。

⑤ 「時は金なり」は、時間はお金と同様に貴重なものなので、大切にしなければならぬということ。

⑥ 「お月見」は、秋の真ん中の十五夜に、満月を見て楽しむこと。ススキを飾り、月見団子や農作物をお供えする。

④

1 ねぼうしてちこくしてきたメリー先生とちがって、「きょうしつ」で「あさのかい」をしているのである。トラ沢ふくこううちよう先生は「たんにん」のクラスがないので「しょくいんしつ」にしているのであろう。

2 あわてて「はねおきると」、「どんどこ山小学校めざしてかけだしました」とあった。アのように朝の「おおごえ」だけでは「あせだく」にはならない。ウのように「じてんしゃ」は「パンク」していない。そもそもメリー先生はじてんしゃにのれないから、のつてもいい。

3 ③ トラ沢ふくこうちよう先生は、ちこくしたメリー先生にたいして「冷たい」あつかいをしている。うその言いわけをならべるメリー先生にあきれているのである。

⑥ ハリネズ田つん子ちゃんは、ちこくしたうえにおかしな言いわけをする先生におどろき、しかもそれが自分のたんにんの先生だとわかってびっくりして、「めをばちばちさせ」ているのである。

4 「とつとつ」は急いで、さっさと。ちこくしているのだからすぐに行け、ということである。ア「ふらっと」はきちんとした予定なしにとつぜん何かをするようす。よろめくようすにも用いる。イ「ざらりと」はたくさんの人や物がならぶようす。

5 すぐあとに説明されている。もともとわすれっぽいのかもしいし、ちこくしてあわてていたので、わすれたのかもしいれない。「つん子ちゃん」でも六字だが、□のあとの「が一人やってくる」に合わない。「つん子ちゃん」は何人もはいないだろう。